

「受け身の基盤整備」から 「攻めの基盤整備」へ

きしい たかゆき
岸井 隆幸

日本大学名誉教授
(一財) 計量計画研究所
代表理事



講演概要

戦後、都市基盤整備は「急速な都市拡大」に追われるように進められてきた。その意味では「受け身の基盤整備」であった。しかし、今や人口減少社会に突入し「志」をもって次の都市社会の姿を自ら描くこと、そしてその道を切り拓く「攻めの都市基盤整備」を多くの人々の参加を得ながら積極的に進めることが求められている。

講演者プロフィール

東京大学大学院都市工学専攻修士課程修了、博士（工学）。建設省勤務を経て、1992年日本大学理工学部土木工学科、2022年日本大学名誉教授。2010-12年（公財）日本都市計画学会会長。現在、国立政策研究大学院大学客員教授、（公財）都市づくりパブリックデザインセンター理事長、（公社）街づくり区画整理協会会長、千代田区都市計画審議会会長、（独法）都市再生機構事業評価監視委員会委員長、（公財）都市計画協会評議員、ACUUS（国際地下研究組織連合）理事、（公財）国際交通安全学会理事、NPO法人大丸有エリアマネジメント協会理事長など。

都市計画法・建築基準法制定100周年記念国土交通大臣表彰、（公社）土木学会功績賞、（公社）日本都市計画学会石川賞、日本サインデザイン大賞（経済産業大臣賞）など。